

(様式 1-2)

I 学校の概要

明日も行きたくなる学校づくりプロジェクト事業

高松市立太田中学校



◆生徒数及び教員数

○生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援	全校
6学級 193名	6学級 190名	7学級 216名	4学級 20名	23学級 619名

○教員数 42名

◆学校の特色

本校では、「主体的に学び 自他を大切にする 心豊かでたくましい生徒の育成」の学校教育目標のもと、人権・同和教育を主軸に、生徒の心の成長を大切にしながら教育活動に取り組んでいる。日常の教育活動において、人権・同和教育の視点をもって生徒と関わり、「一人ひとりが大切にされる支持的風土のある教室」をめざして、なかまづくりを基盤とした学校づくりに努めている。しかし、不登校生徒数や心の不安定な生徒が増加しており、本校の重要課題である。昨年度より、生徒の非認知能力に視点をあて、特別活動（学校行事や学級活動）などをおして、生徒の自己有用感を高める取組を行っている。また、教職員の役割を、「統制者」から「伴走者」として、発達支持的生徒指導の理念を大切にしながら、生徒理解に努めている。生徒が夢と希望をもち、笑顔で過ごせる学校をめざし、教職員がチームとなり学校づくりを行っている。

II 研究主題等

研究主題

明日も行きたくなる学校づくりをめざして

— 生徒自治を核とした非認知能力の育成とウェルビーイングの向上 —

◆研究主題設定の理由

本校の生徒は、ルールをよく守り、節度ある学校生活が送れている。また、素直でまじめな生徒が多く、向上心がある。一方、周りからの評価に敏感になり、周りを気にして自分の考えや思いをうまく伝えられない生徒も多い。不登校傾向の生徒が一定数在籍しており、自分に自信がもてなかったり、友人との人間関係がうまく築けなかったりすることで、集団に入りづらい生徒もいる。

そこで、本校では、生徒の非認知能力に着目し、「心づくり」（内面の質）と「なかまづくり」（関係性の質）の観点から、生徒の心の育成に努めたい。生徒が自己決定できる場を設定し、生徒一人ひとりが輝き、自信をもって過ごせる自治的集団づくりに努めたい。また、なかまとの「つながり」を体感し、安心して本音を語ることのできる居場所ある学校をめざしたい。さらに、生徒のよりよい変容が、教職員のやりがいや働きがいとなることで、生徒・教職員のウェルビーイングの向上につなげたいと考えている。

◆研究内容及び方法

①いじめ等のない安心して学べる学校づくり 【安心できる人間関係】

- ・生徒会から発信！「いじめ未然防止」について提案活動
- ・ピア・サポートの実施
- ・道徳教育の推進（道徳教育の教職員研修の充実・全校道徳の実施）

②心の小さなSOSの早期発見・早期対応 【心理的安全性】

- ・毎朝の「心のお天気アンケート」実施・・・GIGA端末の活用
- ・教育相談体制・・・生徒の声を聴く教育相談の機会確保やいじめアンケート実施
- ・スクールカウンセラーによる教職員研修「聴く技術ロールプレイ」とSSTの実施
- ・スクールカウンセラーによる「SOSの出し方授業」
- ・校内サポートルーム（KSR）の効果的な使い方（多様な登校の仕方支援）

③生徒が不登校とならない、生徒にとって魅力ある学校づくり

- ・人権学習における探究型学習への挑戦→「生きるって楽しい」SHOGEN講演会（9/16）
- ・全学級におけるドリムミーティング実施（どんな学級・学校にしたいか）
- ・生徒の自治的活動を重視した生徒会活動
「ハートフルWeek」、校長ダンスクラブ結成（地域の祭りでイベント）、生徒会ボランティアなど
- ・特別活動（学校行事など）を軸とした自分づくり教育の推進・・・「ありがとうカード」の定着
- ・教職員の話し合い活動を推進・・・教職員が安心してつながりあえる居場所づくり
ティーチャーズミーティング実施・学校教育目標のチャンクダウン実施（非認知能力との紐づけ）

Ⅲ 成果の評価計画（検証方法）

- ・生徒アンケートで検証
「学校へ行くのは楽しい」「困ったとき相談できる人がいる」「安心して自分の意見が言える」
- ・保護者アンケートで検証
- ・全国学力・学習状況調査、県学習状況調査質問紙における自己有用感に関する項目で経年比プラス
- ・不登校生徒数で検証（前年度より減少）、不登校傾向生徒の回復事例分析
- ・いじめ認知件数の分析と保健室来室データ分析

Ⅳ 研究成果の普及方法

- ・ホームページ・学校だより等で研究成果を公表
- ・学校運営協議会で成果発表
- ・「香川の教育づくり発表会」で研究成果発表